

## 女川町復興まちづくり住民説明会（清水仮設集会所） 議事録

日 時：平成24年2月4日（土） 9：30～11：30

場 所：清水仮設集会所

対象者：清水仮設入居者（12～18号棟）

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員  
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

### 1.挨拶 須田町長

### 2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
  - ・災害公営住宅整備事業
  - ・防災集団移転促進事業
  - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

### 3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 年齢制限で銀行融資が受けられないと言われるが、何か方法はあるのか。
- A. 多くのローンが80歳まで支払いを終えるような設定となっている。ただ年齢的に難しいケースでは親子リレーローンのようなものがある。  
次に説明会やる辺りには、資金計画の参考になる情報も出したい。
- Q. 住宅以外のライフラインの復旧のスケジュールを教えてください。
- A. まだ、具体的なスケジュールは出ていない。
- Q. 観光に携わる者としては、せっきくインフラを整備するのであれば、100年先人口が減少しないようにすべき。景観に配慮して電線を共同溝にするなど。
- A. 景観、震災リスク、技術面等考慮してやっていく必要があると思う。
- Q. 清水に店がない。清水の方にも公営住宅や店を整備してもらいたい
- A. 店舗兼住宅はOK、基本的にはそういう人も高台移転の対象になっている。  
高台からの、移動の手段の確保についても検討していきたい。
- Q. 住宅や土地を早く欲しい。抽選になるのか。
- A. 第一段階で大体4割程度を考えている。要望に対しての吸収力はかなりあると思う。地域性への配慮等バランスがとれるようにしていきたい。最終的には抽選等により選ぶ作業は出てくる。公平性を期したい。  
次の意向調査で地区の偏り、災害公営団地への入居希望数などを、見て決めていくようになる。
- Q. JRはいつくらいに再開するのか
- A. 渡波までは今年4月。女川までは、早ければ2年。
- Q. 清水から稲井の方へ抜ける道路が整備できれば緊急時の避難路になる。整備の計画はないのか
- A. 安野平から雄勝峠に抜ける林道がある。冬季閉鎖になる道路だが、県が整備を行い災害の避難通路として確保する。
- Q. 今、防災無線が聞こえない。情報伝達手段の整備が必要
- A. 議会で補正予算通過した。各戸の受信機と、聞こえない部分は改良していきたい。
- Q. 女川の瓦礫の量はあとのくらいなのか

- A. 全体量が 44 万 4 千トンと言われていた。鉄屑売却、コンクリ埋め立てに再利用した分等を引いて推計 30 万トン程度。あくまでも推計。
- Q. 清水地区は、瓦礫から来る煙をどうやって避けるのか。今から対策を立てておくべき
- A. 指摘の通りだと思う。ハエ・臭い・火災等の対応をしていく。
- Q. 子供の数が減っていく中で、教育環境の将来の考えはどうか。
- A. 小中一貫校を将来は検討したい。まちづくり協議会で議論してもらおうと考えている。将来像と、今の状態をどうするかについての議論が必要。
- Q. 雇用の問題をどう考えているか
- A. これまでの雇用は、原発関連が半分、残りが水産加工と観光関連。まず、水産加工業について 2 年以内の早期再建を図る。
- Q. 女川町の人口が減ると、購買額が減ってしまう。いろいろな交流人口を増やす努力が必要である。
- A. 観光が大きな力になる。将来的には経済の活力を交点集中させる。人が常に集う場になることでビジネスチャンスが絶対出てくる。東北大との連携でいろいろなアイデアも出てきている。  
今すぐの、地域でお金が回るシステムについては、宿泊関係の整備により地域の中でお金が回り、雇用も生みだせる。早期に進めていきたい。
- Q. 石巻から女川に入る道が今は、まんせいいん（大原の陸上競技場南側のあたりの地名らしいです）の所では 1 本しかない。原発に万が一のことがあった時には、避難できる複数の避難路が必要。
- A. 雄勝峠から抜けられる道路・京ヶ森線の整備を進める。雄勝、稲井に抜けられるような道路整備を進めていく。

以 上